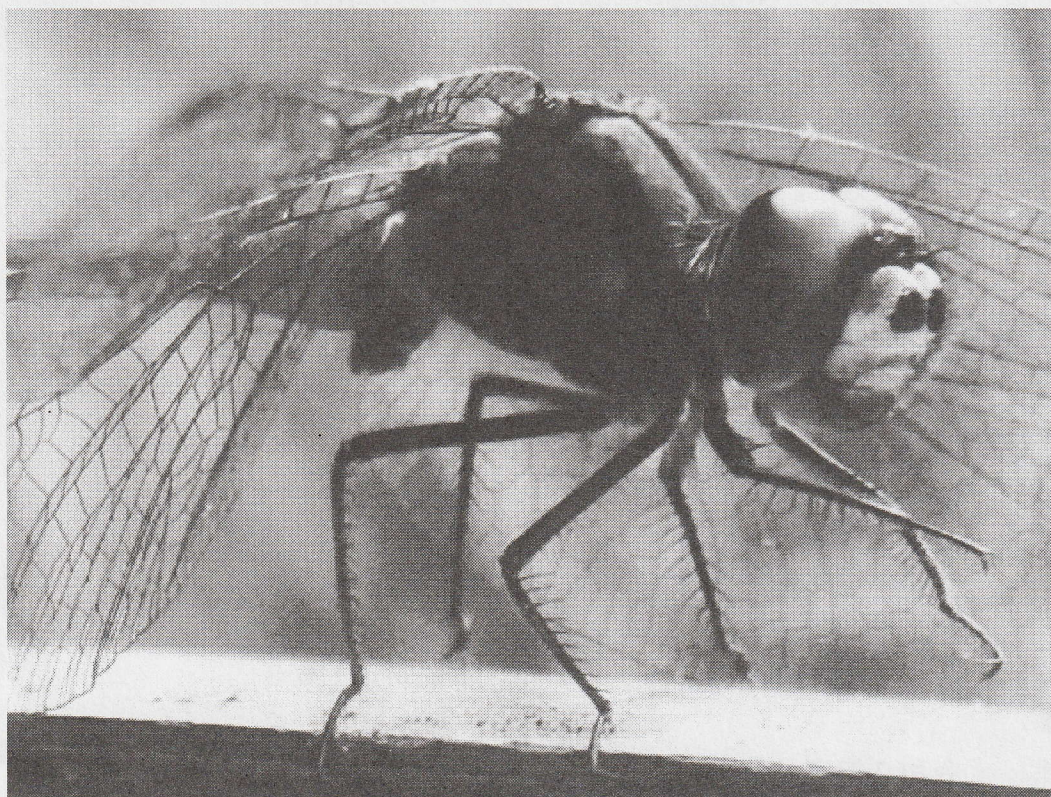


協議会ニュース

No. 167

2020. 9



Contents

- 2 書面表決結果について
- 3 生物(植物)分類・生態研修会ご案内
- 4 表浜の見所紹介
- 5 稲武の自然を見て思う事
- 6 島田緑地自然生態園(湿地シリーズ)
- 7 わが支部自慢
- 8 名古屋支部総会報告
- 知多支部総会報告
- 9 西三河支部総会報告
- 東三河支部総会報告
- 10 会長挨拶/行事案内/編集部から

事務局	石原	則義
事務局	石原	則義
東三河支部	瀧崎	吉伸
西三河支部	山本	博美
名古屋支部	浅井	聡司
東三河支部	星野	芳彦
名古屋支部	滝田	久憲
知多支部	榊原	靖
西三河支部	三田	孝
東三河支部	星野	芳彦
事務局	石原	則義

今号の表紙

犬顔かな? 福田 利夫 (東谷山湿地群の会)
マユタテアカネ 生き物のアップの写真大募集中!

書面表決結果について

2020(令和2)年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)の結果のお知らせ

日頃は、愛知県自然観察指導員連絡協議会の活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。2020年6月19日現在、書面表決書を事務局まで、ハガキで送付された方は、158名でした。そのあとも7名の方からハガキが届きました。合計165名となります。議案の可決につきましては、提出いただいた書面表決書のうち、賛成は、下記のように過半数を超えました。可決します。ご協力ありがとうございました。

書面表決書

令和2年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)について、次のとおり議決に関する権限を行使します。(※各議案について「賛成」「反対」のどちらかに○を付けていただきました。)

令和2年7月23日現在

第1号議案	令和元年度事業報告	賛成	165	
		反対	0	
第2号議案	令和元年度決算報告	賛成	163	
		反対	2	
第3号議案	令和2年度役員(案)	賛成	164	
		反対	1	
第4号議案	令和2年度事業計画(案)	賛成	164	
		反対	1	
第5号議案	令和2年度予算(案)	賛成	163	
		反対	1	保留 1

会員の皆様からの意見をもとに、協議会の運営について、理事会で意見交換をしました。

もっと緩やかな繋がりでもよいのでは？

繰越金が多額であるし、業務内容を見直して会費の減額を検討しては？

県との関係では、生態系ネットワークが存在感を増している。

11月の理事会までに方針を出さないと、来年も今まで通りの企画になりそう

理事会で、三役を中心にWG(検討委員会)を立ち上げ、11月の理事会に原案を提示できるようすすめていきます。

2020年度 生物(植物)分類・生態研修会 ご案内

主催 愛知県自然観察指導員連絡協議会

●日 時 : 2020年11月7日(土)

●場 所 : 日本特殊陶業市民会館 3F第1会議室 TEL : 052-331-2141

愛知県名古屋市中区金山一丁目5番1号
JR・名鉄金山駅下車、北口徒歩3~4分

●研修会 受付 : 13:30~

14:00~15:20 (講演) 休憩(10分)
15:30~16:00 (意見交換会)

●講師: 西田佐知子 名古屋大学博物館准教授



西田 佐知子 氏

●演題: 「植物学の歴史をたどる-伊藤圭介とボタニカルアート-」

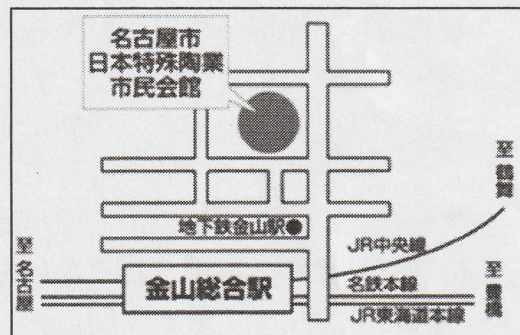
●講師プロフィール

京都大学文学部卒業後、NHK勤務を経た後に植物学の世界へ。京都大学博士(人間・環境学)取得、兵庫県立人と自然の博物館研究員、名古屋大学博物館助手を経て現職。専門は植物分類学・生態学。おもな著書は、日本植物分類学会編「新しい植物分類学」(分担)、高倉耕一・西田隆義編著「繁殖干渉 理論と実態」(分担)、伊藤由佳里編著「研究するって面白い! 科学者になった11人の物語」(分担)など

●講演要旨

植物学は、いまでこそDNAを調べる研究から地球規模での植物の生産活動を調べる研究まで、多様な発展を遂げています。しかし、もともとは身の回りにどんな草や木があって何が食べられ薬になるか知ろうとする心や、遠い異国にある未知の植物について見たい聞きたいという心から生まれました。それが東洋では本草学へ、西洋では博物学へと続いたのです。その後、本草学とは異なり、西洋の博物学は植物分類学、植物系統学へと大きく変化していきます。博物学は、なぜ現代のような植物分類学へと発展したのでしょうか? また、長く本草学を学んできた日本の学者たちは、どんなきっかけで西洋の博物学を取り入れたのでしょうか? 日本の博物学の発展には、伊藤圭介が深く関わっています。

講演では、植物分類学の歴史や伊藤圭介の人生のほか、演者が熱帯へ実際にでかけて植物採集してきた体験談、植物画作成の苦労話などをご紹介します。



※三密が予想されます。先着、定員45名で、締め切ります(事務局までmailorTELで予約)
人数を限定していますので、協議会会員のみとさせていただきます。

表浜の見所紹介

東三河支部 瀧崎 吉伸

令和2年5月31日に計画されていた、表浜自然観察会がCOVID19感染拡大による非常事態宣言を受けて中止となりました。

渥美半島から遠州灘へと続く表浜海岸は片浜13里と言われ、黒潮の反流、伊良湖潮流がすぐ沖合を流れる、太平洋に面した自然海岸です。

1958年の台風13号、1959年の伊勢湾台風と相次いで襲来した台風により、この地方は甚大な被害を受けました。その被害を受けて、県は沿岸域の住民へのヒアリングを行い、その結果をもとに表浜は沖合3kmまで（全国でここだけ。他地域は汀線から500m）が保護されて現在に至っています。

アカウミガメの上陸・産卵は有名ですが、ハギクソウやイワダレソウなど貴重なものから、美しい花をちりばめるハマヒルガオやハマエンドウなど多くの海浜植物や、マダラトビバッタやオオヒョウタンゴミムシなど、自然状態の保たれた砂浜にしか生育できない昆虫など、砂浜海岸としての魅力にあふれています。

さらに、今回ご案内するはずだった豊橋市の伊古部地区は、まだ堆積して数万年～数百万年しか経っていない柔らかな泥岩・砂岩でできています。

フィリピンプレート活動によって隆起してできた丘陵の南側半分が海蝕によって失われ、過去の丘陵の頂上部が海岸崖の頂に残されているという特異な地史の上に成り立っています。安政年間に襲った大地震による津波で激しく海蝕を受けた崖は、それ以前に比べて数十～百mほども後退しました。

「ささゆりの里」の下にある駐車場の地名が伊古部町本郷であることから、江戸時

代になってからも大きな地形の変動があったことがうかがえます。

過去の丘陵はクロマツ林で、エネルギー革命以前には人々が「ごを搔いて」たき付けとして売り現金収入を得ていました。明るい林床には多くのササユリが咲き、季節になると子どもたちが手折って町へ売りに行き小遣い稼ぎをしていました。ガスや電気の普及とともに手の入らなくなった松林には、常緑樹が侵入して林床を暗くし、風通しを悪くします。マツの住めない環境になった林にはササユリも住めません。

絶滅寸前であったササユリの小群落が、土地改良工事の中で見つけ出され、地元の人たちの保護活動が立ち上がりました。他地域の遺伝子を入れず、伊古部のササユリから種子をとり、発芽させ7～8年かけて開花にまで至らせる——とても手のかかる作業ですが、伊古部笹百合保存会の方たちのご苦労によって今もその姿を見ることができます。

伊古部と田原市の滝頭公園などで見られる渥美半島のササユリは、花卉に赤みが強くササユリ分布の東限に近いこともあって遺伝子集団としても重要なものであることが、明治大学の研究によって明らかになりました。安政の津波をうけて建立された記念碑が、潮風に吹かれながら咲くササユリを見守っています。



稲武の自然を見て思う事

西三河支部 山本 博美

稲武は、名古屋出身者にとって楽しい思い出の地。還暦を過ぎた私の主人は今でも、ここでの林間学校を楽しそうに話します。

江戸時代、中馬街道で栄えましたが、本当に山は深く（豊田の最高点『1240m』が有る）平地も些少、飢饉の折は、かなり過酷な生活だったのではと推測されます。

江戸時代の末期、この地に古橋暉兒（てるのり）という賢人が出、『山ならば、山でしかない産業を作りだせば良い』と思い立ちます。山という山に杉を植え、今でも県内有数の人工林率を誇っています。

しかし隣はすぐ信州という土地柄、杉も植えられない急峻な沢には、信州でも見られる植物が僅かに残り、奥地、『面の木』には、国内有数の『太平洋型ブナ林』も残っています。

洞には昔『里人』とはかなり隔たった生活をしていた、誇り高き『杣人（そまびと）』の生活跡が残っています。その地に薬として使用されたオオキツネノカミソリや、居住地に植えたと思われるクリンソウ等が、今でもひっそりと咲きます。

では、もっと歴史を遡ります。私は海の側で育ち、すべての縄文人は、魚貝を採取する生活をしていたのだと思っていましたが、実はブナ林の様な、夏緑樹林帯の方が、多くの住民を支え、大変豊かな生活を送っていたと聞きました。

ブナ林に入ったら、毒や苦みのある栃の実や団栗を食べる為『水晒し』の技術を生み出し、草を薬に、木をロープや衣服にしていた生活を想像するのも面白いと思います。（植物名にはアイヌ語由来のものも多いです。）縄文人は、練達した山の民だったよ

うですね。

ブナ林では、植物以外にもブナ帯独自の昆虫や、たまにヤマネ、モモンガにも出会えます。遠方に行かずとも、名古屋から



1時間強の移動だけで、じっくり『ブナ帯の観察』ができます。こんな豊かな森が残されている事は『愛知県民の誇り』だと思います。

尚、古橋懐古館という素晴らしい資料館もあり、是非行って欲しいのですが、今は残念ながら、『休館中』です。

最近とても気になる事が多々あります。地球温暖化が此処にまで押し寄せている事。寿命を迎えてしまったブナ達が倒れ始めている事。極相林の筈なのに、ブナの子供が、さほど育ってはいない事。

ずっと地面を覆っていたスズタケが近年殆ど枯死。この現象はブナにとっては吉報？それとも、良くない事が起る前兆なのか？？ ブナ達の寿命は400歳弱、徳川家康の没後約400年。鬘を結び、刀を差していた時代から、ずっと生きているブナ達の今後は、どうなっていくのでしょうか？？

多分半世紀以上は生存してきた私達指導員から、次の時代を背負っていくであろう子ども達に伝えたいこと、それは『面の木のブナ達のこれからを、是非見続けてもらいたい！』私のたったの希望です。

稲武は動植物だけでなく、植物から垣間見る事が出来る、教科書ではあまり習わない昔の生活や歴史を知るなど、どれを取っても楽しい場所です。

島田緑地自然生態園

名古屋支部 浅井 聡司

私が 30 年以上も関わっている名古屋市の島田湿地には、シラタマホシクサやハッチョウトンボを含め、多くの希少な生き物があります。会の名称も、「白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会」と具体的なものとなっており、希少な生き物たちを保護しています。

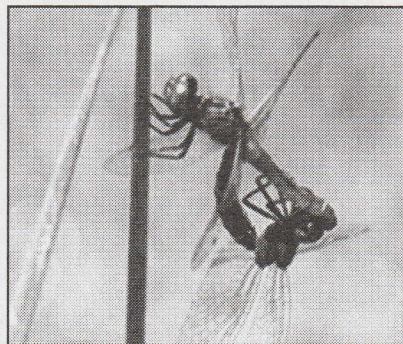
しかし、協議会は、自然保護を主たる目的としていません。自然保護を会の活動に位置づけることなく、自然保護運動を会の中に持ち込むことは許されていません。これは、会を設立するときに、故佐藤事務局長の意向によるもので、会の運営を恙なくおこない、会員間の分断を避けるためのものです。

私が代表を務める会の会員には、私を除いて観察指導員は一人もいません。だから、協議会への月例観察会にも登録していませんし、協議会の中から会員を募ることもしていません。会員は、会独自の講習会で加入していただいたり、また、会の活動に共感していただける方に限っています。いわば、協議会から距離をとって活動しています。

そのような私が協議会に長く携わってきた訳は、会員の中には、個人で自然保護活動をつづけている方が数多くいたからです。このような自然保護に関わっている方と結びつき、多くの見識を得ることは、私が自然保護を続ける上では欠かせないことでした。武田さん、北岡さん、篠田さん、柴田さんなど、数えればきりがありません。また、協議会が行っている観察会、研修会には、自然を保護するための手段や方法がたくさん詰まっており、その手法を学ぶこ

とは、活動を続けるために役立つことだからです。この大きな2つの理由から協議会に携わってきた訳です。

私の島田湿地における観察会は、自然保護をするための知識や思想を学ぶものになっています。私はアドバイスするだけで、実際はそこに住んでいる生き物たちが教えてくれるのです。生き物たちの姿をみて、声を傾け、教わり、そこに暮らしている生き物たちが調和して暮らしていけるよう考える。そうして、自然保護の本質をつかみ取っていただきたいと考えています。また、活動日は第3日曜日の午前中と決めてありますが、活動内容は、各自が誰からも強制されることなく、自主的に活動しています。代表である私も、会員と相談することなく作業を進めていくことはよくあります。そんな姿を会員に見せることにより、考えてもらう、これをモットーにしています。会員一人一人はばらばらであっても、湿地の中で暮らしている生き物たちが、人の心がばらばらにならないように結びつけているのです。もちろん会費も徴収していません。活動への参加も強要しません。気が向いたら、できる範囲で、おしゃべりだけの参加もあります。



ハッチョウトンボ オス・メス

わが支部自慢！（東三河支部）

東三河支部長 星野 芳彦

協議会ニュース 167 号からの新連載記事のトップを私たち東三河支部が飾ることになりました。少し自慢話をさせてください。

東三河地区は、愛知県の東端に位置し、外洋の遠州灘、内湾の渥美湾沿岸の海拔 0 メートルから千メートル以上の三河山間部まで、幅広い自然があります。さらに、中央構造線に沿った、地球科学的にもあの「タモリさん」にも十分に満足していただける位に魅力的な地域といえます。タカの渡りの伊良湖岬やミカワバイケイソウやシラタマホシクサの葦毛湿原など全国から自然愛好家が訪れる人気スポットにも恵まれ、一年を通して自然観察に絶好のフィールドが何か所もあります。

しかしながら、私がこの場をお借りして本当に自慢したいことは少し違います。

以前、この会報で書いたことがあります。当支部は、県内の他支部と大きく異なり、唯一の「特定非営利活動法人 NPO」だということです。単なる任意団体ではなく、法人格をもった団体です。私たち「東三河自然観察会」は、1983 年に愛知県自然観察指導員連絡協議会の東三河支部として数人のメンバーで発足しました。その後、会員数も増加し、2003 年 NPO 法人となりました。2020 年 2 月の総会時、会員総数は 81 名に達しています。

法人化するにあたり、正直、私自身にも迷いがありました。法人化して何がどうなるんだろう？ メリットとデメリットは？ 今の仕事はそのまま続けられる？ 様々な「？」があったのは事実です。しかし、実際、法人化してみて思ったほど大きな障害はありません。お役所への手続きや会計報告などは、確かに煩雑ですが…。

ただ、法人として社会的な信用が上がったことは事実で、様々な業務を委託され、おかげさまで観察会には多くの皆さんにお越しいただいています。

会員には、NACS-J の指導員講習を受けていない方もいますが、法人化で多くの会員を受入れて、メンバーは、大学から小学校の教員、公務員、民間の会社員、主婦などの様々な職種や 80 代から 10 代までの幅広い年齢層にわたり実に多彩です。

私たちの観察会は、HP をご覧になればお分かりのように、NPO 理事が主導して計画しますが、基本的には、会員全員で行います。また、会員には、植物、昆虫、野鳥、地質などそれぞれの専門家が常時参加しますから、「歩く図鑑や専門書」が何人も同行しているようなものです。観察会は本当に楽しく、あっという間の 150 分です。

観察会を再開するにあたり、感染拡大防止対策をいかにするかが目下の課題です。



2020年2月16日 東三河ふるさと公園
東三河には、いいものが沢山あるぞん。
いっぺんおいでんやれ。まっとするでのん。
標準語訳(東三河には、いいものがたくさんありますよ。
一度お越しください。お待ちしております。)



NPO法人

東三河自然観察会

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

日 時：2月23日（日）14:00～
場 所：名古屋市西区生涯学習センター
参加者：23名 委任状：33名

令和2年度の名古屋支部総会が「名古屋市西区生涯学習センター」で開催されました。

最初に平成31年度の各種事業の報告が行われました。本年度も、様々な自然観察活動や、名古屋市環境局と協力した様々な環境保全活動などが実施されました。また、愛知県で指導員講習会が開催されたのを受けて、庄内緑地公園で新入会員の研修会を兼ねた県協議会交流の日を名古屋支部が担当しました。また、令和2年1月に「国際生物多様性の10年」に関連したあいち・なごや生物多様性EXPOが実施され参加しました。

続いて、会計報告がなされ、事業報告と共に承認されました。

次に、令和2年度の役員が紹介され、事業計画と事業予算が議論され承認されました。

総会終了後、愛知学院大学講師の富田啓介氏により、「東海地方における湧水湿地イベントリの作成」と題した講演会が行われました。氏の専門は自然地理学。東海地方には、湧水湿地が多く、多様な生き物の生息場所となっていますが、その分布などの基礎的な知見がありませんでした。そこで、氏は湧水湿地研究会を立ち上げ、2013年から2019年にかけて、東海地方を調査し、1643箇所の湧水湿地を確認しました。講演ではその主な湿地を紹介して頂きました。

名古屋支部 令和2年度役員

支部長：滝田 久憲

副支部長：石原 則義、石樽 純子
大澤 淳二、近藤 記巳子
高松 一史、瀧川 正子、
布目 均、巾 賢治
堀田 守

会 計：新山 雅

知多支部総会報告

榊原 靖

日 時：2月16日（日）9:30～11:30
場 所：阿久比町勤労福祉センター
参加者：36名

知多自然観察会（知多支部）の総会は、2月16日に行われました。冒頭の開会宣言の中で、（高齢者の多い当会にあつては尚更に、との注釈つきで）新型コロナウイルス感染への注意喚起がなされたことに象徴されるようにギリギリのタイミングで開催できたといったところでしょうか。

年号が変わった昨年は当会にとって初の出来事がありました。それは、我々の出自制度といえる日本自然保護協会の自然観察指導員講習会が、40年に及ぼうとする歴史の中で初めて知多地域で行われたことです。普段馴染みのない自然保護協会の担当者や講師の方々、県協議会の他支部の皆さんとの協同や、新たに指導員を目指す講習会参加の皆さんとの交流は、地元開催ならではのいい刺激になったと感じています。

総会の議事は滞りなく進行し、代わり映えのしない新陣容でのスタートとなりました。新年度行事予定も承認され、粛々と予定をこなしていくはずだったわけですが、この原稿を書いている時点で、新たな感染症との闘いという先の見えない事態に翻弄されています。

知多支部 令和2年度役員

顧問：降幡 光宏

代表：榊原 靖

副代表：榊原 正躬

南川 陸夫

庶務：吉川 勉

会計：森田 琢磨

会計監査：牧野 靖子

山田 公子

西三河支部総会報告

三田 孝

西三河支部の総会は2月1日(土)に岡崎竜美ヶ丘会館にて開かれました。出席者は12名でした。

2019年度は会主催観察会を4回企画しました。天気に恵まれ順調に開催され、延べ73名の参加を得ました。9月にはあさひ高原元気村で会員研修会(12名)を実施。きのこの観察とバーベキュー・きのこ汁を楽しみました。4ヶ所の地域定例観察会(くらがり溪谷、おかざき自然体験の森2グループ、平戸橋周辺)も順調に実施できたとの報告がありました。参加者数は約700名。会報は4回の予定のところ3回の発行になりました。ホームページはスキルのある人材が見つからず再開の目途が立ちませんでした。

2020年度は会主催観察会を4回予定しました。4月19日(日)「王滝溪谷(豊田市)」、7月4日(土)「タカドヤ湿地(豊田市)」、10月3日(土)「遠望峰山(幸田町)」、1月23日(土)「油ヶ淵(碧南市)」です。会員研修会として6月21日(日)「天生湿原」で高層湿原を楽しもうという企画をしました。地域定例観察会は新たに「亀城公園自然観察会(刈谷市)」が立ち上がり、中川さんを中心に運営されます。既存の4ヶ所は例年通りに開催予定です。

今年度の役員は

会長 三田 副会長 馬場 事務局 石黒

広報 中根 監査 水谷

幹事 河江、山本、伴、中川

で臨みます。

新型コロナウイルスの蔓延で協議会ニュース発行も見合されて、現在7月末日になっています。この間、3～5月まで観察会はすべて中止。6月になり感染防止対策をとりつつ観察会が再開されましたが、今後再度中止の可能性もあり予断を許さない状況です。

東三河支部総会報告

星野 芳彦

去る2020年2月8日(土)午後から、豊橋市民センター通称「カリオンビル」で、2020年第19期第1回通常総会(当支部は、NPO法人の為、正確にはこういった名称の会となります。)が行われました。

議案書に基づいて、前年度の事業報告・収支報告、今年度の事業計画・会計予算が審議され、様々な問題に対して、建設的な議論の場となりました。

今年度5名の新メンバーが仲間に加わりました。これまで少し手薄な分野が充実してきて、観察会の内容にも厚みができそうで楽しみです。

また、できるだけ多くの会員が何らかの形で参加し、観察会を盛上げて行こうと決意を新たにしました。みんなの力で誰もが楽しく、自然の素晴らしさを共感できる自然観察会を目指したいものです。

総会のフィナーレは、会員による「卓話」という名のミニ講演会です。毎回、興味深い内容で、総会の疲れ(?)が吹き飛びます。

今回は、神戸敦さんを講師に「中世以降のニホンオオカミの記録」という演題でお話をして頂きました。神戸さんは、哺乳類を様々な方法で調査・研究をされていますが、特に三遠南信地方のオオカミの民俗学的な文献調査に始まり、現地踏査を行ってそのまとめが報告されました。オオカミ=ヤマイヌといえるそうですが、詳細は、蟲譜 56(1)(2017)に掲載されていますからご参照ください



新城に残る山犬図(1794年)

浅井 聡司

令和2年度、新しく会長職を仰せつかりました「浅井聡司」と申します。自ら進んで手を上げたわけではなく、皆さま方に押され担がれて職につきましたので、皆さま方のご理解とご協力がなければ務まりません。また、いたらないことがありましたら、ご教授、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。しかし、あまり叱咤激励しすぎますと、引きこもりになってしまうので、ほどほどにお願い申し上げます。(合掌)

(本題) 会員のみなさま、日頃から皆さまが行っている自然観察会をみていると、とても頭が下がる思いです。一度は、観察会に参加させていただきたいと思っています。

【行事案内】

区 分	日 時	内 容	実施場所	集合場所	担 当
研 修	10/31(土) 8:00～17:00	蛇紋岩質植物など	新城市 吉祥山	地下鉄本郷駅 ターミナル北 側 8:00	名古屋支部・ 滝 田 052- 782-2663
生物分類・ 生態研修会	11/07(土) 14:00～	「植物学の歴史を たどる-伊藤圭介 とボタニカルアー ト-」	日本特殊陶 業市民会館 3 F 第 1 会 議室	受付 13:30～ 講演 14:00～ 16:00(先着順 45 名予約受 付)	協議会 事務局
あいちの自 然観察会	12 月 12 日 (土) 9:30～12:00	日長神社の紅葉を 愛でよう	知多市 日長神社	産業道路 日 長インター東 広場 P	知多 細川

＜編集後記＞

5月に予定の表浜観察会・次世代育成のための新人研修会(稲武)は、新型コロナ関連防止のため自粛しました。愛知が誇る砂浜、表浜。ブナ林がある稲武の観察、来年こそは実施したい。そのための新人研修会は10月に稲武で実施予定。詳しくは、チラシ参照。理事会では、観察会でのコロナ対策を検討。人数制限、アルコール消毒、フェイスシールド、ペン除菌など。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail : norinameobata@yahoo.co.jp Web Page : http://naichi.net
郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)